

入学・就職のお返しに、白松の名菓

品質は語る……

白松がモナカ 白松がヨーカン



さくら餡の どら焼



塩漬けした桜の花びらを
薄紅色にいろづけた白餡に入れて
やさしくカステラで仕上げました。

「春」を感じるどら焼。

1個 118円

※産直店にてご用命をお待ち申し上げております。表示価格は消費税込みです。

八木山には個人が造った日本最大級の球場があった

今は幻となった八木山球場。
野球場開きには23,000人が
詰め掛けたという。

(写真：河北新報社提供)



【参考資料】「宮城県史」「仙台市史」「宮城県百科事典」
石澤友隆著「八木山物語」

「日米は戦争をしましたが、この像には平和のシンボルとしての意味も込められています」と事務局長を務めた元東北放送アナウンサー吉岡徹也さん。
では、これはどの球場を個人で造り気前よく寄贈した八木久兵衛さんとはどういった人だったのでしょうか？もともと八木山一帯は越路山（こえじやま）という名で仙台藩（城に近接の為）の保護地でした。維新後の開発により荒廃する山に心を痛めた豪商八木家が山を丸ごと買上げアメニティーに配慮した開発を行ったため昭和初期頃から八木山と称されるように。この八木家の5代目の方が久兵衛氏です。八木家の八木山開発は4代目久兵衛氏（同名）から開始されており、球場の他にも私財で吊り橋（初代の八木山橋）遊園地、幹線道を設置しいずれも周辺の土地とともに仙台市に寄贈しています。地下鉄も12月には開通し、時代に合わせ変貌を続ける「八木山」。八木山開発に生涯をとした八木久兵衛氏の像も動物公園正門前になっています。

平成14(2002)年、市民の手で建てられた、等身大のペーブルース像。



アメリカメジャーリーグの伝説の大ホームラン王「ベーブ・ルース」が、仙台の野球場で2本のホームランを打っていたのを「存知ですか？今から80年前、昭和9（1934）年11月9日のことです。」「コボスタ宮城宮城球場で？」と思いますよね。でも、宮城球場ができたのは戦後の昭和25（1950）年。実は当時、「八木山球場」という東洋一の野球場が仙台にあったのです。場所は今の八木山動物公園。ルースは、米側選抜チームの一員として来日。その第4戦、八木山球場にて来日初ホームランを打ったのです。戦後、動物園の開園で球場のあったあたりは八木山動物園のアフリカ園となっていますが、ホームランの落下地点には等身大のベーブ・ルース像が。建立したのは野球ファンや市民有志《ベーブ・ルースの像を建てる会》。

八木山動物公園内のアフリカ園の一角にある。彫刻は翁観二氏。



「仙台の遺産」バックナンバーは白松がモナカHPで

「八木山球場」

やぎやま きゅうじょう

宮城県営八木山球場

昭和4年(1929年)～昭和40年(1965年)

日米親善野球(昭和9年11月9日)が行われるほど、昭和初期には知名度のある球場であった。実業家の八木久兵衛氏が私財を投じ、当時日本一の神宮球場を上回るべく、同球場の管理担当者の指導を受け完成させた。昭和4年の野球場開きの当日宮城県に寄贈され、県営となり、のち仙台市に移管された。戦前戦後の混乱や老朽化により使用率も低くなり、閉場となる。



八木山動物公園正門前には、5代目八木久兵衛氏の銅像も。